

## 1. iDeCo とつみたて NISA の活用法

(株) リンクマネーコンサルティング 代表取締役 高橋忠寛

### 1. iDeCo とは

2001 年から始まった制度で、個人型確定拠出年金、個人型 DC と言われています。2017 年から制度が改正されて加入対象者が広がり、国が「個人でも老後資産の形成に取り組んでください」というメッセージが含まれる制度ともいえるでしょう。税制も優遇されているので、積極的に利用していきましょう。

個人型確定拠出年金 (DC) : 拠出とは、掛金を払うことをいいます。個人型の場合は 5,000 円から 1,000 円単位で掛金を設定します。その決まった掛金（運用開始後も掛金を変更することができます）を拠出して、運用成果に連動した給付金額を年金や一時金として受給できます。運用管理は自己責任です。

企業型確定給付年金 (DB) : 企業年金のひとつで、将来もらえる年金が決まっています。企業が運用責任を負い、仮に運用の失敗などで不足が発生した場合は企業が補填し、個人が管理をする必要はありません。

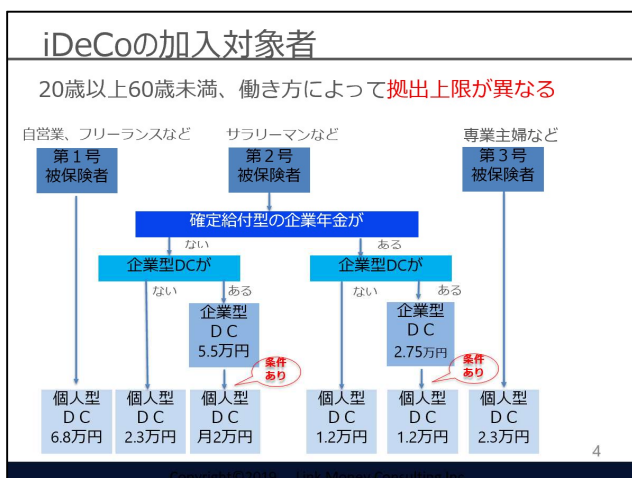
#### ① iDeCo の仕組み

iDeCo は運営管理機関、つまり銀行や証券会社等の金融機関が商品を提示します。まずは金融機関を選び、その次に商品を選んでいきます。iDeCo は税制優遇されていますので、投資商品に魅力を感じない場合は、税金の優遇を受けて、保険や預金として使うこともできます。

#### ② iDeCo の加入対象者

20 歳以上 60 歳未満の方が対象です（但し、国民年金の保険料の未納・滞納がある場合は加入できません）。働き方によって拠出上限が異なります。

サラリーマンなどの方は、お勤めの企業に確定給付型年金があるかどうかによって拠出上限が変わるため、ご自分の会社に確認してみましょう。



なお、お勤めの会社に企業型 DC が導入されている場合、iDeCo には加入できないことが多いです。また、企業型 DC には iDeCo では自己負担となる口座管理料を会社が負担してくれるなどのメリットもあります。

自営業者・フリーランスの方は優位な拠出上限金額が設定されていますので調べてみるといいでしょう。

なお、転職等で働き方が変わった場合でも、課税されることなく年金資産を次の制度に持ち運ぶこと（ポータビリティ）ができます。

### ③ 税優遇メリット

拠出時：毎月の掛け金が「所得控除の対象」になる。その年の所得税・翌年の住民税の負担が減る。

運用時：運用益は非課税のため、効率よくお金を増やせる。

給付時：退職所得控除、公的年金等控除の対象となるので、受取るときに税負担が軽くなる。

※住宅ローン減税で税額控除を受けている場合には、iDeCo などを活用しても節税効果がない場合があります。しかし、拠出時の税優遇は受けられなかったとしても、非課税で運用できる点ではメリットがあるといえます。

### ④ iDeCo のデメリット

60 歳まで運用中の資産を引き出せない仕組みとなっているのがデメリットと言えます。(但し、老後資産を確実に貯めていくことができる、と考えればメリットにもなります)

但し、今の生活に余裕が無い場合には適さないので、個人の支出バランスを見てチョイスしましょう。

## 2. つみたて NISA とは

2018 年 1 月からスタートしたもので、小額からの長期・積立・分散投資を支援するための非課税制度のことです。この「長期・積立・分散」という考え方は投資をしていく王道です。

これまでの（一般）NISA の買付可能額は年間 120 万円でしたが、つみたて NISA は 40 万円まで、と非課税枠が少なくなりますが気軽にチャレンジできる制度ともいえるでしょう。国内居住の 20 歳以上の方であれば年齢を問わず利用できます。

そして、つみたて NISA は金融庁が定めた基準を満たす投資信託・ETF しか選べません。手数料が低水準、頻繁に分配金が支払われないなど、長期・積立・分散投資に適した公募株式投資信託と上場株式投資信託 (ETF) に限定されており、投資初心者をはじめ幅広い年代の方にとって利用しやすい仕組みとなっています。

一般 NISA に比べてつみたて NISA の方が、非課税期間が長く運用できます。iDeCo と異なり、途中でやめることもできますし、20 年後に特定口座という課税対象になる口座に移管されて運用が引き続きできます (特定口座に移ったあとは追加で増えた利益が課税対象)。

## 3. iDeCo とつみたて NISA の比較

現在、制度の恒久化の要望は出ているので、今後変更・改正があることも予想されますが、iDeCo もつみたて NISA も少額からでも始めておくと良いでしょう。

なお、手数料は iDeCo の場合、運営管理機関に支払う手数料が発生します。手数料は金融機関によって異なるので、自身のニーズに合わせて選択していく必要があります。インターネット型の金融機関は比較的リーズナブルな傾向がありますが、コールセンターやサービス・利便性などの整備についても確認してみると良いでしょう。

資金の性質が異なるので、商品の特徴に合わせて iDeCo とつみたて NISA の商品をチョイスしましょう。

iDeCo・つみたてNISA		
	iDeCo	つみたてNISA
新たな資金を入られる期間	60歳になるまで	20年間 (2018～2037年)
限度額	年14.4～81.6万円	年間40万円
税制優遇	拠出額が所得控除	—
	運用益非課税	運用益非課税
	公的年金等控除、退職所得控除の対象	—
資金の引き出し	60歳までできない	いつでも可
手数料	管理手数料、信託報酬など	信託報酬など



## 《アセットロケーション》

資産の配置・税制面も考慮して、資産をどこに、こういった形で保有するかという考え方です。コストを下げる、税を押さえることで自身の資産を増やすことができます。  
※資産の配分を意味するアセットアロケーションとは異なるので注意。

## 2. トークセッション ～女性投資家を交えて～

A:既婚。子供2人。共働き。つみたてNISA、企業型DCを利用して資産運用している。

B:既婚。子供1人。共働き。2014年につみたてNISAをはじめた。

濱:濱島

高:高橋

### ① 資産形成、資産運用を始めたきっかけ

A:二人目の子供が生まれて出費が増えていく中で、家を買ったり、教育資金や老後資金に不安を覚えたりしてFPに相談をしたのが始まりです。

B:37歳、当時独身で一人暮らしをしていました。年1回定期預金の見直しをしていたのですが、投資と一緒にすると定期預金の利率が変わることに興味があって調べ始めました。

高:私は学生時代から株や投資信託に興味がありましたね。濱島さんはどうですか？

濱:私は証券マン時代に、自社株をローンで買ったのが始まりです。上司に「ローンを組んででも買え」と言われて買いましたが、当時はバブルだったこともあり、最初は大損しました。個別銘柄の売買に関しては、経験をもとに勝率を上げることはできるのですが、勝ち続けるのは不可能なので、リスク分散をして投資信託をしていくのがいいと思いましたね。

### ② 最初にどのように取り組み始めましたか？金融機関・商品選択のポイントは？

B:銀行に相談しに行ったら、定期預金と投資に対する扱いの差を目の当たりにして、本で調べてみることにしました。金融機関を選んだきっかけは、たまたま通りすがったインターネット証券のマネープラザで相談したのが始まりです。商品選択については、本を読んだ時に、「インデックス投資がおすすめ」と書いてあったので、そのままインデックス投資で先進国・新興国・日本の株を買いました。

A:私の会社で入っていた企業型拠出年金で増えていることを実感して、確定拠出年金に関する本やブログで勉強を始めました。金融機関は、購入手数料がかからず、インデックス型の投資信託かつ、信託報酬

の低いものを選びました。

濱:お二方はなぜインデックス投資をしたのですか？

A:本で広く分散されている方が運用には良いと学びました。信託報酬が低くて幅広い投資商品があることに魅力を感じてインデックス投資を選びました。

B:個別株を買った場合には自分で株価を予想しなくてはいけないので、指数にそったインデックス投資には納得感があるのでインデックス投資を選びました。

高:より手間を掛けたくない場合には、インデックスファンドの方がおススメ。アクティブファンドの場合は、趣味でやるのも好きな場合にはお勧めします。

濱:インデックスファンド、アクティブファンド、個別銘柄なのか、についてですが、インデックスファンドを投資の中心に据えていらっしゃるのには理由があります。アメリカでは、アクティブファンドはインデックスにパフォーマンスで勝てないといわれているのです。インデックスファンドはコストも安く、資産形成をしていくにはよいといわれています。

個別銘柄は値動きが大きいので、自身の力で何ともできず、そのリスクを減らそうとたくさんの銘柄を買っていくと結果的に市場平均に近づいていきます。個別銘柄は一部の資産で楽しむ、というつもりで持つといいでしょう。

③ 子育てやお仕事など、日々忙しい中でご自身の投資のメンテナンスはどのようにしていますか？

B:私が利用しているつみたてNISAは自動です。銀行から自動で口座送金してくれているので、何もしていません。年1回チェックするくらい。

A:毎月自動積立を利用していますのでほぼチェックはしていません。毎月の収入の中から天引きをしているので、その収入の中から生活をする、ということを意識しています。

敢えて、意識しないように心掛けていることは、株式の相場に変動があると不必要に気持ちが揺れます。積立投資には運用成績には影響がないので、あえて日経平均は気にしないようにしています。

濱:人間は、感情があるから投資に失敗するんです。群衆心理等が働き、投資行動において人間は合理的に行動できなくなることが往々にしてあります。それらの人間の感情を排除した投資の仕方が、ドルコスト平均法や、つみたてNISAなのです。また、専門家をアドバイザーとして据えることでそういったリスクを回避できますね。

④ 資産形成を始めてよかったこと、失敗したことがあれば教えてください。

B:まだ始めて4年なので、失敗は実感していませんが、やってないより、やっていた方がいいかなというくらい。臆病になって資金を移動した方がいいと頭でわかっているけど、リスクを取らない方向についてしてしまうんです。年金の試算をして、つみたてNISAを始めてみて、20年後のビジョンが想像しやすくなったのが良かった点だと思います。

A:老後資金の確保のために始めましたが、企業型確定拠出年金もつみたてNISAもしてみると、「何かしら対策をしている」という思いから漠然とした不安が和らいできました。何かしら対策できたのが良かったですね。

私に向いていないなと思ったのは、一般NISAで株式に投資するインデックスファンドと現預金との間でリバランスをとる資産運用をしていたのですが、リバランスの取引のタイミングを意識することがしんどく感じました。

高:ちなみに、リバランスとは、定期的に資産の比率をチェックし、ズレた比率を元の比率に戻す作業の

ことです。マーケットは常に変動していくので、時間の経過とともに資産配分の比率は当初から徐々にズれていくので、自分で商品を組み合わせる場合は、リバランスを行っていく必要があります。バランス型ファンドといわれる、予め分散投資された資産配分を利用するのも一つの手ですね。皆さんが抱える不安の多くは「わからない」ということ。まずは、公的年金が何歳からいくらもらえるかを把握してみましょう。年金ネットやねんきん定期便から確認すると良いですよ。お近くの年金事務所でも対応してくれます。

⑤ 投資についての知識はどう得ていますか？相談相手はいますか？

A: 投資に関する知識はブログや本を読みました。基本的な本を最初に読んでみるというのがおススメです。そうすることで全体像を把握できますし資産運用のイメージもわかりやすいですね。相談相手については、近所のママ友にはあまりにも生々しくて相談できず、今は Twitter やブログで知り合った方に相談しています。また、商品を取り扱っていないFPさんにマネープランを作ってもらって相談しています。

B: 銀行窓口やFPにも相談しましたが、本を読むことから始めました。また、Twitter やブログに自身の状況を公開して、疑問を聞いたりしました。

高: 一般の投資家目線で書かれた本も最近は売れていますね。個人投資家が集まるコミュニティのイベントに参加してみると、定期的な情報交換ができていいと思います。

⑥ 仕事・家事・育児などもある中で、投資にかける時間のやりくりはどうしていますか？

B: 最初に勉強したり、口座を開いたり、仕組みづくりには数か月かかりましたが、その後は自動なので、ほとんど今は手を掛けていません。あとはたまにメンテナンスをするくらいです。最初の1か月は勉強して投資を始めよう、と決めてスタートしました。

A: 自動で積立にしているので、投資に割いている時間はほとんどありません。最初の仕組みづくりだけは頑張りました。

濱: 資産形成を始めるという点でお二方の考え方は合っていると思います。

高: いつか自分のお金と向き合う時がくるなら、どこかで覚悟を決めて始めるべきですね。

数ある金融セミナーに参加するかどうかの見極め方は？

B: ネットで調べた金融セミナーに行くと、商品の話やFPと保険の契約が前提だったりするんです。

参加してみないとわからないものですね。

A: 金融セミナーに参加したことは少ないが、主催者を確認することが大事だと思います。

⑦ (参加者より) 夫にも投資について興味を持たせたいのだが、どうしたらよいか？

A: 投資をするということが前に出ると拒否されてしまうかもしれません。例えば、「今後の事を考えてると今の収入で考えると、これくらい足りないかも？」と相談すると少し興味がわいてくるのではないかなと思います。私の場合は、FPにマネープランを作ってもらった時に赤字になるタイミングを聞いて資産運用を始めました。現実の危機感を共有して、何のために資産運用をするのかを話し合っていくといいと思います。

高: これまで政府は「貯蓄から投資へ」と言っていますが、最近は「貯蓄から資産形成へ」と言い始めました。「投資」というとハードルを高く感じられる方も多いのかもしれませんがね。

B: 私の夫は投資に関する理解はあります。ただ、投資にはリスクの面もあるので、理解を示さない人に無理やり相手に押し付けないようにしています。

⑧ (参加者より) アセットアロケーションをバランス型にした場合にも見直しをしましたか?

また、信頼できる相談相手であるFPさんをどうやって見つけましたか?

A: リバランスはメンタル面で負担になるので、しないようにしています。FPは会社の組合が開催した資産運用講座の講師で、金融商品の取り扱いをしていない人にしました。

B: バランス型はつみたてNISAの時に買いました。バランスファンドが自分の方向や状況に合っているかどうかを見直す時期はあると思います。私はFPには頼っていません。

高: リバランスより、リアロケーションを考える必要があります。転職や退職など自分のライフステージに見合っているかがポイントです。

濱: コンサルティングやアドバイザーを名乗る人も多いのですが、金融庁から登録を受けているかどうかは一つの選択基準になると思います。



⑨ (参加者より) 証券会社の担当営業が連絡をしてくるタイミングにはどんな意図があるのでしょうか?

濱: 証券マンは株が下がっている時は買替提案をしにくい状況なんです。逆に株価が上がっている時には積極的に買替の提案もできるんだと思いますよ。

#### 《女性投資家からのメッセージ》

A: 最初からMAXで始めるのではなく、不安があるうちはこの金額でも納得できる、と思える金額からスタートしてみるといいと思います。小さく始める方が長く続けられますよ。結婚すると夫の資産も合わせた総合の資産で考えると思うが、自分名義のiDeCoやつみたてNISAを意識した方がいいと思います。

B: まずはやり方を聞いて、最低限の金額から始めるといいと思います。夫が先に亡くなったときに…と想像してみて自分の手元に残る資産を想像することも大事だと思いました。

## 3. 投資の潮流

### (株) ウェルスリード 代表取締役 濱島成士郎

#### ESG 投資

昨今、企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの観点が必要だという考え方が世界的に広まっています。

ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったものです。地球環境に配慮しているか?人権や地域社会との共生を考えているか?女性が活躍し、統治性・透明性の高い経営をしているか?などを重視しています。

ESGの観点は、機関投資家の間で急速に広がりを見せており、投資の意思決定において、従来の財務情報だけを重視するだけでなく、ESGも考慮に入れる手法は「ESG投資」と呼ばれています。



## SDGs

ESG 投資と切っても切れない関係にあるのが、SDGs です。2030 年までに、「持続可能な開発目標」として全世界の民間企業が取り組み、解決していくべき 17 の課題で、Sustainable development goals (SDGs) の頭文字をとったものです。

SDGs に挙げられた課題は、企業が事業活動を行う場合に考慮すべきものです。

自分たちのビジネスにおける領域と 17 の目標を検討し、自分たちが最も貢献できるエリアで、プロセスに落とし込んでいきます。

これをしっかりやっている企業は、ESG に配慮した経営をしているということで、ESG 投資の観点から高い評価を得ることになります。

つまり、社会的な課題解決が事業機会と投資機会を生むということです。



## 4. 国際金融都市・東京の実現

金融庁の資料によると、日本は、資産運用によって形成された家計の金融資産が諸外国と比べても低いのが実情ですが、この金融資産を増やしていくことが安定的な生活につながると考えています。

東京都では、次の 3 つの柱で東京の金融を活性化させていきます。

### ① 魅力的なビジネス面、生活面の環境整備

海外の金融系企業や有能な人材が惹きつけられ定着するよう、金融系企業に対する税負担の軽減を検討するとともに、金融系行政手続の相談体制及び英語化対応の強化、生活環境整備などを推進していきます。

### ② 東京市場に参加するプレイヤーの育成

事業者間の競争促進により、都民にとって低廉かつ良質な金融サービス、商品が提供されるよう、官民一体となった海外プロモーション活動等を通じて海外金融系企業の誘致を促進するとともに、資産運用業やフィンテック産業の育成、金融系人材の育成を推進していきます。

### ③ 金融による社会的課題解決への貢献

投資家・顧客本位の視点を徹底し、ESG 投資など社会的課題解決に資する取組を積極的に推進する東京市場の実現に向け、顧客本位の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）の徹底などを図っていきます。

### 東京金融賞

「東京金融賞」は、「都民ニーズ解決部門」、及び「ESG 投資部門」の 2 部門から構成され、2017 年 11 月に発表された、「国際金融都市・東京」構想の取組みの 1 つとして、今年度新たに創設されました。

2018年7月～8月にかけて、都民の皆様から寄せられた金融サービスに係る課題・ニーズ、ESG投資へのご関心などを基に、「都民ニーズ解決部門」、及び「ESG投資部門」において、特に優れた金融サービスに係る課題・ニーズ等の解決に資する金融事業者、及びESG投資の普及を实践する金融事業者を表彰します。

#### 東京グリーンボンド

2017年に国内自治体として初めて発行したグリーンボンドで、2018年も発行されています。

東京グリーンボンドを通じて機関投資家と個人投資家から調達した資金は、環境対策事業に充当されています。

#### 官民一体の東京版金融プロモーション組織の設立

2018年度に海外金融都市の例を参考にしながら、「東京版金融プロモーション組織」について検討し、2019年度に組織を設立します。世界で激化する都市間競争を勝ち抜くため、海外への発信力を強化していきます。

(参考 URL : 国際金融都市・東京)

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.jp/gfct/>